

に緑陰図書閲覧室と名付けられ、そこには現代感覚に相応しい抽象的、幾何学的形体に造形されてテーブルや椅子などが次々設置された。美しい季節感たっぷりの緑陰を多様に利用しての目的は大方は果されたと確信しています。



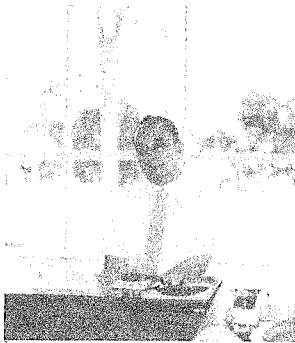
図書館外壁・「螢雪」と題する大壁画

その外思い出は、筆舌に尽し難いと言える位多いのですが、昭和26年度の卒業式の際授与された技能賞（二科展入選・兵庫県小・中・高校絵画展入賞の牧野詠子さん）の桶のデザインを担当したが、また、卒業生全員に贈る自治会記念メダルは、昭和25年度（兎どし）卒業生より贈呈され、十二支を年々素材にして、昭和37年3月の卒業生（寅どし）まで贈られ、兄弟は一巡して段落となったのです。さらに、

## 第2部 昭和30年以降の芦屋高校の移り変わり

### 現在の芦屋高校

#### 記念祭や文化活動の充実と校風の確立



奥田竹先生

や文化活動の様子など奥田先生からお伺いしたいと思えます。

奥田 「芦屋高校の校風の確立」というテーマに早速触れて恐縮なんです、大学でも高校でもどの

県立芦屋高等学校記念祭旗のデザイン（飯野校長時代）とか、夏の高校野球全国優勝記念のバッジのデザイン、殆どのクラブの部バッジのデザインなど私の発達段階の未熟なものではありましたがその時その折にあって、見方、感じ方、考え方をその機に表現したつもりです。大変はずかしいとは思いますが、そのようなバッジや表紙のデザインその他が一部でもどこかに残っていると思えば感激です。一生かけがえのない思い出となるでしょう。

自主、自立、自治の精神を培った先輩の心を年々代々受け継ぎ、知・徳・体の教育目標に向って、指導された多くの先生方の情熱が、貴く尊い姿になって眼前に浮かびます。

「打てばひびく」という言葉がありますが、やはり、私達自身、未来を開く心豊かな人づくりを目指して、教育のための指導や助言が、個々の生徒たちに如何なる影響を与えているのだろうか。「訴える力があり、理解を深め高める教育はどうあればよいか。」必ず、山彦のように力強くはね返ってくるようであればなりません。それだけに真剣味が大切で、信念のもと、教育効果を心に受けとめるまで頑張り抜かねばならないのです。

学校も出来て最初の10年くらいの努力というものがある。その後の学校の校風を大きく左右すると思っております。それで、昭和30年になると、はっきりした校風が出来ていたと思うんですが、ただ、先程からお話しになった先生方と同じように野球部は全国優勝した学年を1年から3年まで持たせて頂いて、その有難い思い出をもう一度味わいたいという個人的な気持ちもあって、ずるずるしているうちに教師としての生涯が終ったような感じがするんです。確かに20年代から30年代、特に30年代というのは、自治会活動が最も花開いた時期だと思っております。これは「十五年史」「二十年史」の各クラブの活躍を見て頂いたら分かる。今、日本の芸術・文化・スポーツ等多くの方面でトップクラスにある卒業生が随分出ているということは、やはりこの時代の芦高が非常に素晴らしいものを持っていたということを示す

かにしていると思う。ただ、クラブ関係のことは少し置いて次の津本先生のところとダブるんですが、30年代40年代の様々な問題をお話したい。



昭和30年当時の教室風景

### 昭和40年前後の芦高をめぐる様々な問題

日本の戦後史が昭和40年代を境に、恐らく1965年あたり、東京オリンピック前後が一つの節目で、それから後随分世の中もそれまでとは違った面が出て来たように思う。ちょうど35年頃に安保闘争がある。そして、芦屋高校の場合は、39年の卒業式で答辞問題が起こった。その後、大学紛争の影響で高校にも学園紛争があり、やっとそれが落ち着いたかな、という時に、芦屋市では同和問題が持ち上がった。その頃、ここにいらっしゃる先輩の先生方は県の側の立場で随分ご苦労もあったし、一方私達（津本先生と私と、それから高木先生は来られて一年目くらいだっと思いますが）は現場の第一線ということで、大変だった。

芦高の場合は39年の答辞の問題が一つのエポックになっているかと思いますが、これは戦後のベビーブームの時期に重なり、38年、つまり18回生を出して21回生を迎えた年で、芦屋高校が12学級になった年です。また、芦屋市では市立芦屋高校ができたんです。

### 学区制の問題 芦高をめぐる教育情勢の変化

それまでも苦しい財政の中で芦屋高校独自の父兄の援助というものがあって、21回生迄は、まだ芦屋市内の小・中学校は、（その当時から私どもは少し疑問に思っておりましたけれど）教育協力金ということで年額幾許かの額を出せば、西宮・伊丹・宝塚から市内の小学校・中学校に来れたという時代が

あって、山手中学・精道中学の卒業生の中には、芦屋へ来て芦屋高校へ行くということで越境していた者がたくさんあった。当時の名簿をご覧になればお判りになるように、21回生くらいまではクラスのき、多いクラスでは半数くらいが今で言う校区外の生徒です。それが、清水校長が芦屋市の教育長にいられて、市の要請等でそれをシャットアウトされた。これは一つの行政的英断だとは思いますが、ただ、余談ですけど、その時に少し惜しいと思ったのは、県の教育委員会が神戸市の小学校にもそれを適用しなかったということですね。それまで芦屋市内の中学校に来ていた者は皆、本山中学校や鷹匠中学校等へ行ったわけです。特に本山中学の場合は、そこに行けば神戸高校へも行けるし、そこで少し具合が悪ければ芦屋へ来れるし御影へも行けるという非常に複雑な状態ですね。こういうことで、ちょうどその時代の小学校・中学校の人が高校へ入る年代の頃から、芦屋高校の生徒に一つの質の変化があったと言えることができる、これは否めないと思いますよ。

そこへもってきて、後藤貞夫校長が芦高に来られて、ちょうど芦屋市に道盛教育長が来られた時に、芦屋市内の父兄に、なんとか神戸学区に堂々と行けるようにしてほしいという要望があって、後藤校長は県のその関連部署に居られたので、教育関係法規を充分確かめられたうえ、違法ではないということで、山中・精中から合計30名位ですか、神戸高校へ行ってもよいということになりその代りに本山・本庄中からは120名位でしたか、要するに受け入れる人数を制限するという妥協案が出され、それがずっと後々残っていると思うんです。

### 同和問題の影響

そこへ同和問題が起こったものだからなおのこと、芦屋の教育行政は非常に難しい局面を迎えた。小学校教育の現場では非常に苦労されたんですが、一部の父兄の方で理解して頂けない点があって、市内から小学校の時点で市外へ行ったり、（まあ、小学校はともかくとして）中学校から私立へ行く者が増え出した。そこへ40年以後の高度経済成長の煽り（あき）でゆとりも出来たというので、市内の公立小学校から私立中学校へ出る度合いが従来以上に増している

わけです。ですから、校区外から芦屋へ来る生徒が減ったというより市内から中学校の段階で私立へ行く者が増えたということは、芦屋高校へ来る人数がそれだけ減っている。さらに本山中学・本庄中学からの受け入れ数を制限していますから、市内の両中学からは芦屋高校に必ず300人は入れる、いわば、予約席があるわけです。そういうことを2・3年重ねているうちに本山・本庄から来る生徒は基準をどんどん下げても通るんですから、余計に芦屋高校は不利な立場です。僕は、これがやはり、今の学校が一番大きく悩んでおいでになる原因だと思うんです。辞めて初めてこういうことも言えるので、実際学校においでになる先生方の口からは、言い訳めいて聞こえるから言えないことなんですけれども。客観的にはそういう状況があって、県立芦屋高校というのは非常に難しい課題があるんじゃないか、このことは空谷先生などはもっと大きな立場でお考えですから、あとでご意見があればお聞かせ頂きたいですね。

**空谷** 今、おっしゃるようにね、例えば、村上春樹は精中から神戸高校へ行った。

**奥田** ええ、村上春樹。村上春樹に大森一樹という映画監督、どちらも精道中学出身なんです。

市立芦屋高校が出来た時に、芦屋市教育委員会の有力者の方々や市会議員の方々が、両中学校へ働きかけて、優秀な生徒を市芦へ寄せせよという運動がありまして、新しく出来た市立高校の先生と芦屋高校の先生を呼んで教育懇談会をしてほしいと言われ、一度出席したことがあります。その時に、「学校に勤めている者が学校によって姿勢が変わるということはないんで、どの学校も皆一生懸命教育しているんだ」という話をはっきり申しましたら、「ああ、それで安心した」ということで、芦高へ従来通り生徒が来てくれて、逆に市が思っていた程、市芦の方へ行かなかった。他にも事情はあるんですが、そういう苦しいスタートがちょうど40年ですね。

だから、校史の時代区分で、30年・40年という区切りより20年・30年で一区切り、40年で、10年間だけれども、この10年間というものはものすごく大きい。そして後50年はというと、皆さん方が現に教育

現場で活動しておいでになる時代だ。

特に40年代のその辺のことを津本先生はご存知だし、村上先生などは随分ご苦労なさっておりますし、また、当時本校卒業の先生方が中心に居られて、何としても県立芦屋高校は一枚看板できちり受け入れもし、譲るところは譲っても、どうしても譲れないところは譲らないという姿勢を作りあげていこうということでやったんですが、ちょっと想像を絶するような状況でした。（「四十年史」にそのことは書いてありますが）

とにかく、高木先生は着任早々で覚えておいでになると思いますが、1月の始業式が済んで3月の入学試験の頃まで、連日の如く職員会議が行われまして、それも夜の10時・11時、一部の教師は夜中の2時・3時まで拘束されます。あの時県側には空谷先生や中西先生もおいでになり、ここに居られる先生方や最近までずっと芦高に勤めておられた先生方は、皆大変苦労なさった。

### 現在の芦高の評価 芦高独自の校風樹立

それが、現在の芦高はかえって町では、進学についてはともかくとしても、或る意味では非常に評価がいいのですよ。その根源を溯って考えると、やっぱり20年代の最初の校風というのは、<sup>55</sup>正しくそこに脈打っていると言えるのではないかと。

僕は、芦屋高校というのは何でも時代を先取りしていると思います。勤めて最初の時に驚いたのは、終幕祭のダンスを許すか許さないかで終電車の時刻まで揉めましてね、遠い所から来ている先生が「もう後2分ですよ」なんて言いながら、会議をしていたことを思い出します。今では、フォークダンスなどこの学校でも当たり前だが。それから、体育祭のデコレーション、あれも恐らく芦屋高校がはしりだと思う。それから、制服の問題もそうですし、名列票の男女区別なく一緒に並べるやり方は僕らが勤めた時からそうでした。今もずっとそのままじゃないですか。今では当り前のことを、あの当時から当り前にやっていたということがありましてね、そういう強さが40年代の同和教育問題にもある程度生かされたんじゃないかと思うんですけど……

あれこれ話してきたなかで、大きな印象というの

はやっぱり40年前後の市内の教育情勢が変わったということですね。それから、39年の答辞の衝撃<sup>ショック</sup>というものがあつたのではないかと思います。その次は、学園紛争、これはどの学校にもあると思います。その後の最大級の大きな問題で、確かにそれによって学校側も、私個人も含めて先生方も、非常なプラスになる面もあつたことは事実ですが、市内の小・中の足腰が弱くなつたということは事実ですね。

ですけれども、私が辞めましてから今度は一市民としていろいろ聞いてますと、(まあ、一つは塾にやろうというふうに、家庭や生徒の意識が変わつたためもあるのだが)生徒が非常におとなしくてやりやすい学校だというような評価がなされている。教育というものは、ながく、しんどいものがあるから実際は、僕は、そうじゃないと思うんですが……しかし、昔も今も、生徒が生き生きとして通つているということを楽しんでいる親が、実際多いことは事実です。

校風の確立というのは、やはり文化と同じで、意識して作るものじゃなく、皆やってるうちに自然に一つのもので出来ていく、そういうふうに思うんですけどね。

曾谷 その頃、「そごう」の絵画展でたまたま先生とお会いしたことがございましたが、先生のお顔色が悪く、お疲れのご様子で、ほんとにお気の毒に思つて拝見したことがありました。大変だつたんだと思います。

福山 まあ大変な時代でしたね。私自身も兵庫高校在職中体験したんですけど。

### 校史の難しさ

奥田 それから、もう一つ、どの大学も「年史」に関してはここ20年間の記述に困つている。というのは、大学紛争をどのように位置づけるかということで頭を悩ましています。ご承知のように、大学側は高校と違ひもっとイデオロギーのはっきりした先生方がおられるでしょう。ですから書きようがないんです。確か立命館かどこかが、比較的上手に書いてるらしいんだけど、芦屋高校の場合も、本当に書く気なら大変難しいと思うんですよ。正直に書くことが本当は歴史としては必要なんだ。それだけ

の叡智と勇気をちゃんと持ってやられたら、理想的なものが出来ると思います。

ここに居られる方々は皆体験なさつていらっしゃると思いますが、一つには、学校の中だけの動きじゃなく、日本の教育や社会運動の大きな渦の中で起こつたことが、学校側にとっては、その存在自体が過去の歴史を含め一時に猛烈な勢いで点検し直されたような影響を、それらの動きによって受けざるを得ない。しかも、神戸高校のように校区がしっかりしておれば、また元に戻るということもあるんだけど、芦高の場合は校区は狭いは、小中は徹底的にある影響を受けたことによって、(いいか悪いかは別ですよ、受けたことは事実ですから)それによる学力の低下は、正直言って、ある。そして、どの場合でもそうですが、一度そうなつたものを元に戻すのは同じ年数では済みません。それで良くなつたらまだいい方です。(良くなるというのは俗な意味で「良くなる」ね。)

だから、教育をどう考えるかという視点はきっちり持つたうえで、年史を編集しよう、或いはものを言おうとすれば、ある程度のもので出来ると思うのですが。昔も今も、芦屋は特に他の町以上に教育熱心な町ですから、こういう校区の狭い処では、教師や生徒以上に地域社会の意向がもろに出てくるころがありました。私が市民でしかも芦高しか勤めていませんので、その辺全然ピントがはずれているかも知れませんが、津本先生やその他の先生方から見られたご意見を、私個人の勉強としてもお聞きしたいと思うんです。

司会 どうもありがとうございました。年代の分け方に少し問題があるというようなことでしたが。今度は、津本先生に生徒の学習状態、また生徒の意識の移り変わりについてお話し頂いたらと思います。奥田先生と重複する点が多くあるかと思いますが、よろしくお願ひします。

## 芦高教育の移り変わり

——生徒の学習面や意識の移り変わり